放送用語委員会（大阪）

「○○では」と「○○は」の違いは？

第1393回放送用語委員会が，平成27（2015）年9月11日（金）に大阪放送局で開かれた。外部委員は，国立国語研究所客員教授の井上史雄氏と，元NHK放送文化研究所研究主幹の豊島秀雄氏。大阪，京都，神戸，和歌山，奈良，大津の6局からの出席者とともに，放送のことばや表現を審議した。

■助詞の使い方に気を配る

◎「では」か「は」か？

【リポートコメント】
京都府宮津市では，民間企業と共同で，放置された竹を使った新製品の開発に乗り出しました。

当該箇所の表現について出席者から，次のような質問が出された。「こうした場面では『では』と『は』のどちらがよいか。私はこういう場合は『は』がよいと思う。主体をぼかしたいときに『では』と書く傾向があるのではないか。『では』は普通は場所を表す助詞であり，主体を表す助詞として使うのには違和感がある」。こうした意見に対して外部委員からは，「これは長く議論されてきた問題。主体が誰なのかを取り立てて強調したいときに『○○では』と書く，という意見もあるし，今出たような，主体をぼかしたいときに『では』を使う，という意見もある。難しいテーマだ」。また，次のような意見も出された。「例えば『政府』であれば『政府は』になり，『政府では』と言わない。どういう機関かがわかっているからだろう。また，『宮津市○○課』のように責任のある担当部署が詳しくわかっていれば，『では』でも『は』でもよいと思う。責任の所在がはっきりしない場合に，『宮津市では』という場所を表す形が出てきやすいのではないだろうか。ニュースであれば，責任の所在が明らかになる『○○市○○課は』という形で伝えるのがよいのではないだろうか」。

◎「するも・なるも」を略した「も」

【ニュース字幕】
小型機の２人がけが
周辺建物などに被害も住民などけがなし
（コメント「小型機に乗っていた２人がけがをしたほか，周辺の建物などに被害が出ました。住民や通行していた人にけがはありませんでした」）

こうした「も」が安易に使われている。「投手好投も敗退」などのスポーツ紙の見出しの影響だろうか。使うなとは言わないが安易な使用は控えたい。ここでは省いてもよいかもしれない。

■もっとやさしく，わかりやすい表現で

◎長い連体修飾節は避ける

【リポート前説】
日本のマラソン発祥の地とされ，毎年２万人が参加する関西有数の市民マラソン「神戸マラソン」が開催される神戸市。その中心部に先月…

次の文の「その中心部に」につなげるために，前の文を体言止めにしたのだろうが，連体修飾節が長すぎる。「神戸市は日本のマラソン発祥の地とされています。『神戸マラソン』は，毎年2万人が参加する，関西有数の市民マラソンです。」などと，一度文を切ってほしい。

◎漢語は控えて和語でやさしく伝える

【リポート前説】
長年放置された竹林が拡大して，山や畑を荒らす被害が，各地で問題となっています。

漢語が多い。「竹やぶが増えすぎる問題が…」などと，もっと和語でやさしく言いかえるのがよい。竹林の読みは「チクリン」か「タケバヤシ」かという問題もあるが，そもそも普通は「竹やぶ」と呼ぶだろう。全体の中で，1か所ぐらいは「竹やぶ・竹林」などと並べて言ってもよかった。また，「竹害」という語も出てくるが，「チクガイ」と耳で聞いてもわからない。字幕は有効だが，放送ではやはり耳で聞いてわかることばを使うのが基本。また「荒らす」

は，本来は「荒れる」ではないか。人間や動物が主体ならいいが，植物だと違和感がある。竹林を主体にするとわかりやすくなる面があるのは理解できる。ただ，竹林を管理する人間側の責任が不明瞭になることにも注意したい。

◎リードのことばの選び方に工夫を

【ニュースリード】
小型機の離着陸が多い八尾空港がある，大阪・八尾市の消防は，事故を受けて，住宅地での事故に備えた対策を充実させることを検討しています。

東京での事故を受けてすぐに大阪での対応を取材した時宜を得たニュースだが，このリードの当該の表現（下線部）は，当たり前のことを言っているようにも聞こえる。そもそも「充実させること」に「検討」の余地はあるのか？ と捉えられてしまう。本文は「訓練の実施や出動計画の見直しなどを検討」となっているので，リードも「出動計画を見直すことを検討」などとするのがよかったのではないか。

■当事者が使う表現を放送でどう取り上げるか
◎「盲ろう者」という語の使用をめぐって

【リポート前説】
次です。目と耳がいずれも不自由な人たちは，「盲ろう者」と呼ばれます。…

ここでは，「目と耳が不自由な人（目と耳に障害がある人）」という言い方も考えられたが，「盲ろう者」という語を広めたいという支援団体の趣旨を受けてこう表現したという。こうしたことばは単に言いかえればよいというものではない。今回も相手の立場に立って考えた末に，この表現でいくと判断したのであればそれでよいだろう。

ただ，そのための「語の定義づけ」がリポート前説の冒頭に来ると冷たく響く。もう少し実態を紹介してからでもよかった。例えば「目と耳がいずれも不自由な人たちは，和歌山県内では，少なくとも100人以上が暮らしているといいます。こうした人たちは，『盲ろう者』と呼ばれますが…」，あるいは冒頭に「次は目と耳がいずれも不自由な人を支援していこうというリポートです。」などの一文を挿入すれば，やわらかく聞こえる。

◎「もらう」という表現に注意する

【リポート前説】
この盲ろう者について知ってもらい，将来の支援につなげたい。

「もらう」という授受の表現が何度か出てくる。NPOなど支援する側の「知ってもらいたい」という表現をそのまま使っているのだろうが，メディアが言うと，盲ろう者（あるいはNPO）側は恩恵を受けてお礼を言わなければいけない立場だと言っているようにも聞こえる。「多くの人に伝えて（知らせて）」などの表現もあり得る。ただ，「知らせようと」よりも「知ってもらおうと」という表現の方が，知るという行為を相手が完了するまでを指すことができるというメリットもある。「もらう」についてはこうした長所と短所を踏まえたうえで，ふさわしい表現を選んでほしい。

■ふだんのことばをどこまで放送に取り入れるか
◎「すいません」はぞんざいに聞こえることも

【中継コメント】
「あ，すいません，走っている途中ごめんなさい」
「すいませんトレーニング中…」

「すいません」は話しことばで使うが，改まった場ではぞんざいに聞こえるかもしれない。「すみません」を使うようにしてほしい。

◎文頭の「なので」

【リポート後説】
なので，○○さんは夜中から早朝にかけて，撮影を行っているんです。

文頭の「なので」は新しい表現で，若い人にとってはもう当たり前だと思うが，改まった場面ではふさわしくないと捉えられている。一方で，適切な言いかえのことばがあるわけではなく，話しことばでは，いちいち非難すべきではないと言える。改まった場面では使わない，ということだけは意識しておきたい。

井上裕之（いのうえ ひろゆき）

第1393回放送用語委員会（大阪）
【開催日】平成27年9月11日（金）
【出席者】井上史雄 氏，豊島秀雄 氏，
正籬　聡 大阪放送局長
鈴木郁子 NHK放送文化研究所所長 ほか